



学びのホームグラウンドじんけん楽習塾



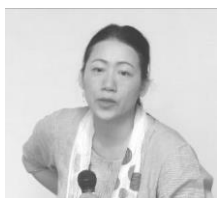
OYAOYA 通信

ひと 人権を「他人ごと」から「自分ごと」へ

6月14日第3回目は、テーマ「差別はネットの娯楽か?～ネット上での差別への取り組みについて～」(公財)反差別・人権研究所みえ常務理事兼事務局長の松村元樹さんです。よろしくお願いします。

5月31日2回目の報告

5月31日は「子どもの貧困を減らすためにできること」徳丸 ゆきこ(NPO法人CPAO代表)さんの回でした。



徳丸さん自身は子どもの頃からみんなと一緒にいって、不登校の時期もあったそうです。でも、地域のいろんな人に支えられて、孤立はしていませんでした。

大人になって引きこもり支援の現場や、そしてセーブザチルドレンでは約10年働きます。子どもの参画が徳丸さんのテーマでしたが、2009年に貧困問題にいます。日本で7人にひとりの子どもが貧困状態だと公式発表されます(今は6人にひとり)。その背景にはシングルマザーの置かれているしんどい状況があります。その後東日本大震災復興支援スタッフとして働いたりしますが、自身もシングルマザーであり、子育てしながら働くことのたいへんさを感じたそうです。

2010年には大阪市西区幼児2人「放置死事件」(マンションの一室で3歳と1歳半の兄弟が衰弱死した事件、母親もネグレクトで育ったといわれる)、2013年には大阪市北区で母子「変死事件」(3歳と28歳の母子の遺体が3か月ほどたって発見された事件)が起きます(「もっとおいしいものを食事をさせてあげたかった」という趣旨のメモが残されていた)。

このような、「孤立・孤育て」ではあかん、開くしかないと思います。大阪生野区でNPO法人CPAO(シーパオ)を立ち上げます。CPAOとはChild Poverty Action Osakaの頭文字で「大阪子どもの貧困アクショングループ」という意味です。目的には「子どもの貧困をなくすこと。見えにくい子どもの貧困を明らかにするために子どもや家庭の生活を調査し、子ども・親・周りの大人をサポートしていくこと」とあります。

シングルマザー100人の聞き取り調査や、相談、直接支援、そして目の前にいるしんどい状況に置かれている子どもたちの居場所事業、その中の子ども食堂は週3日+1日はお弁当として配達もついでかえってもらおうという活動、相談、行政などへの同行など、様々な取り組みをエネルギーに展開されています。目の前の支援活動とともに長期的な視点で政策提言もしているそうです。傷つきと不信で孤立した人々への「個居人(こいびと)」つくりと話されたのが印象に残っています。

日本はOECD加盟国のGDPに占める教育機関へ公的支出割合は3.5%でワースト2位で、日本よりGDPの大きいアメリカ4.7%より低い数字です(2013年)。なぜそうなったのか?これからもそれでいいのか、考えこんでしまいました。(文責ぼん)

連絡

参加者の皆さんで宣伝したいチラシ等ありましたら、ご持参ください。おなががすぐ時間なのでおにぎり、パンなどの軽食はOKです。毎回ふりかえり用紙をくばります。後でメールファックスでもいいので送ってください。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYAOYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るとい方は事務局に連絡ください。

みなさんの感想

●子どもの貧困の話は聞かされた時になんで解放子ども会（に関わる予算）をなくしたかな〜☆と思います。その実践が地域外にも広がればカバーできたのに、ともしどかしい思いがします。

なぜ、シングルマザーだったりの弱い人をバッシングするのか、そのバッシングを許すのか、日本は本当に下品な社会だと思います。

●何が自分にできるのかを改めて問い直しました。

・ひとりひとり生き方がちがうから。その人個人に向き合えないと貧困という課題には向きあえないのだと思いました。ありがとうございました。

●日本ならではの貧困の連鎖に一番影響を受けるのは子どもであることから早急に対策が必要なものであることに気づかされました。お金や物資が必要なのはもちろんではあるけれど、孤独にさせないための人、気づくための人、支援するための人、寄り添う人が何よりも必要で、そのすべてをカバーするにはあまりにも自分自身を含めた社会全体の子どもたちの貧困への認識が甘く、追いつかないということを感じました。

●すごい一言につきます。自分が生きているだけで精一杯なので、なんでどこからそんなパワーが出てくるのかなと感じました。♪しんどいわ そんな毎日 ああしんど♪

●徳丸さんの行動力、人間性に感動した。子どもの貧困について考えさせられた。

●今日は貴重なお話ありがとうございました。教育現場で働く一員として、子どもたちとのかかわり方を考えさせられる時間になりました。子どもの貧困問題（親の貧困）の現状を念頭に置き、子どもたちの居場所をつくれるよう頑張りたいと思います。

●働くおかあさん達やシングルマザーの方々の大変さや現状がたくさん知れました。またその子どもたちに対して私たちや国が何ができるのかを改めて考えなければならぬんだなあと思いました。たくさんのお話が聞けてよかったです。

●20代の頃に出会った女の子が「4歳の娘を実家に預けて働きに来て。覚せい剤で2度刑務所にも行っている。娘は時々おもちゃを持ってくる人としか自分を見ていない」と話してくれた。「もっと子どもの時にあんたみたいな子と友だちになったらよかった」といってくれたのを今日すごく思い出した。20代の私にその子の過去も傷も重すぎて、縁をつなぐことができなかった。今の私なら何ができるだろう、何かしなければと思いました。

●本当にたいへんな実態、貧困と暴力の中で子どもたちがどう成長していけるのか。子どもが将来の社会を支えていくことをもっと認識すること。その子どもの

育ちを社会はどう支援していくのか、課題が積みあがっていくようです。

●子どもの貧困という言葉を知ってから、すいぶんとたつが今まで全く理解していなかったことが、この講演を聞いてわかった。貧困におちいる理由・原因が根深く、簡単に解決できることではないと思った。しかし、できることから始めることが一番大切だと思った。こういう講演を市の行政(保護のCW等)にきいてもらいたい。

●ひととのつながりが大切ということを感じました。行政も民間もつながるネットワークづくりの重要性を感じました。つながることのできる様、情報収集の大切さを感じました。

●子どもの貧困といいたがらしんどい親の背景、親がSOSを出すことが難しく、行政の冷たい対応がある。横のつながりをこえていかなければクリアできない。教育格差が拡大していく中で、これからどうしていくかを考えるだけでなく、動いて行かなくてはならない。貧困のスパイラルを崩すために地域、学校、社会が必要なので作っていきたい。地域の要というのは一つのキーワードとなった。♪つつむいえ あたたかいごはん 子どもの居場所♪【だいこん】

●徳丸さんの情熱的な活動の話を知って、私には何が出来るだろうと考えました。学校は子どもがこまっていることを見つけやすいと思うが、何か「大きな壁」が邪魔になっているのではないかと・・・【も】

●SOSをだせる人を育てることのイメージが変えられた。それはしんどい人が勇気をだして、このしんどさは自分のせいじゃないと胸をはって、「しんどい、助けて！」と声を出せる力を身につけられるように育てることだと思っていた。でも、そうじゃないんだ。声を出せる余裕のある人たちこそがもっとしっかり、今の世の中おかしなぞと、声をあげていくことなんだと、よくわかった。問われているのはこのわたし自身!!【つつちい】

●子どもの近くで様子を見ているつもりでも、まだまだ子どもたちの様子、ちょっとした変化を見逃していた部分がたくさんあったなと感じた。なんで、子どもたちが「先生」として続けに呼んでいるのかと思わず、「ねえ、ねえ」という言葉を大事にして子どもたちに寄り添いたいと思った。時間に余裕がないときほど、優しさ、穏やかさを持った声かけが大切だと感じさせられた。

●貧困のランキングで大阪がワースト2位、福井がトップだと聞いて、学力と関係しているのだと思った。今、自分のできることを考えると子どもの未来に向かった教育に関することだと思いました。

